

教育委員会会議の概要（令和5年7月定例会）

- ◆ 日 時 令和5年7月25日（火）午後2時00分から午後2時56分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	福 田 洋 之	出 席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出 席
委 員	梅 田 真 理	出 席
委 員	川 又 政 征	出 席
委 員	後 藤 由 起 子	出 席
委 員	山 田 理 恵	出 席
委 員	庄 司 弘 美	出 席

◆ 会議の概要

- 1 開 会
- 2 議事録承認 4月定例会、5月定例会、6月臨時会
- 3 議事録署名委員の指名 梅 田 委 員
- 4 報 告 事 項
(1) 市議会報告について

(総務課長 報告)

資料に基づき報告

後 藤 委 員 学校の設備について、老朽化に伴う改築や大規模改修等を計画的に進めているということだが、今の小学校の洋式トイレと和式トイレの割合、そして、今、小学校にあるコンピュータ室を今後どうしていくかということも一つの課題として考えていかなくてはいけないのかなと思うがいかがか。

総務企画部長 小中学校のトイレの洋式化について、現在、基本的な考え方としては、大規模改修や改築の際に進めているところである。大規模改修などの予定が喫緊にないところについては個別のトイレ改修を行うことにしている。

現状についての資料は持ち合わせていないが、令和8年まで全体の50%について洋式化が完了する予定で進めている。

次長兼学校教育部長 コンピュータ室については、今、GIGAスクール構想が進んだことで1人1台端末を配備することになったので、部屋としてのコンピュータ室が不要になってきてい

るということもある。コンピュータを集めて授業をしなければいけないケースがこれから先どのくらい出てくるのか分からないが、また、学校の設備、施設の充足の状況もあるので、児童数の増減などを含めて、コンピュータ教室自体もどのように使っていくかということは学校によっても変わってくる。これからの検討になると思うが、いずれにしてもICT教育環境が充実していく中で、これからのコンピュータ活用環境として適切なものを考えていくことになる。

花 刈 委 員 これは予定にあるのかどうかだけ伺いたいですが、各教室、職員室、事務室等にエアコンをつけていただいたが、理科室、家庭科室は恐らくまだ整備されていないと思う。特に家庭科室などは調理等で使う場所なので、夏場はかなりの高温になると思う。もし、今後のいわゆる特別教室のエアコンの設置について計画、予定等があれば教えていただきたい。

総務企画部長 特別教室へのエアコンの設置について、普通教室へのエアコン設置は完了しているが、特別教室は基本的に閉め切らないといけない音楽室等にはエアコンを設置している。今ご質問にあった理科室等について今のところ整備の予定はないが、莫大な事業費がかかるということもあるので、国の補助の状況等を確認しながら今後進めていきたいと考えている。

教 育 長 市議会でも時々質問が出る話題で、もちろん普通教室だけでなく特別教室にもあったほうが望ましいとは思っているが、財源の問題があるというような段階だということで答弁をしている状況である。

(2) 令和4年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について(中間報告)

(総務課長 報告)

資料に基づき報告

梅 田 委 員 前にも意見が出たことがあるような気はするが評価の仕方について、改めて確認するが、例えば20ページ、21ページに、「命を大切に教育の推進」、「福祉教育・人権教育の推進」、「道徳教育の推進」というような、例年実施されているものが出ているが、これ自体の評価が、例えば文末だけでいくと、「理解が進んだ」、「育む契機となった」、「一助となった」、「高まりが感じられた」というような表記になっているが、これ自体は意識調査など、実際に学校から成果を聴き取ってこのように述べられたのか。何か具体的なここに表された言葉の基になるような調査や資料があれば教えていただきたい。こういうことの評価は難しいと思う。このような書き方だと、実際に昨年より何が進んだか、何がよくなったのかということが非常に分かりにくいので、丁寧にやっていることは分かっているが、これがこのような効果があったと言うためには、どういったことが必要かは考えていかなければいけないかなと思っている。

それから、22ページに「心のバリアフリーの推進」という事業があり、これもずっと続けられている事業だということはよく分かっているが、評価のところに「児童生徒の社会性や豊かな人間性を育むとともに、障害理解教育の推進にもつながった」という記載がある。障害理解教育というのはとても大切で、これは国も大切だと言っているが、仙台市として障害理解教育とはこういう形で進めていくというような大枠をつくられているのかどうか。本当はあったほうが良いと私自身は考えているが、もしあれば教えていただきたいし、もしなければ、今後検討されていく点があるかどうかということについて教えていただきたい。

教育指導課長 命を大切にする教育の推進や福祉教育・人権教育の推進、道徳教育の推進の実施状況については各学校にヒアリングを行い、あとは年度末・年度初めの調査等を通じて、実施状況を確認している。

委員ご指摘のとおり、子どもの実情をどのように捉えるかという難しさがあることは承知しており、それぞれの取組の内容に関する評価の部分については、当該事業に関わる教職員の研修会などでの情報交換やグループ討議、または教育課程訪問や、教育センターなどの学校訪問の中から情報を集めて記載をしている。

梅田委員 そのあたりが難しいことは十分承知している。ただ、毎年同じ評価、書き方で終わってしまう部分があるので、そのところは今後も今話していただいたような対応をしていっていただけるとありがたい。

特別支援教育課長 もう一つ質問いただいた心のバリアフリーの推進についてだが、心のバリアフリー推進事業を使った各学校における障害のある方を招聘しての体験学習などについては、毎回、実施した学校から報告をいただいております、その中に子どもたちの感想などが一緒に入れられているものが多くあるので、そのあたりも参考にしながら評価等を行っているところである。

なお、障害理解教育ということについての考えだが、この3月に本市で策定した仙台市特別支援教育推進プランの中でも、障害の社会モデルという考え方を踏まえながら、障害理解を進める上で対象児童生徒と教職員、さらには保護者・市民というように対象を明確にして、それぞれの障害理解教育を進めていくこととしているところである。そういった考えを踏まえながら今後も障害理解教育を推進していければと考えている。

山田委員 28ページのⅡ-2①、標準学力検査の部分で、令和4年度で29教科中5教科が目標値と同等以上というのはやはり低いと私も感じていて、たしか前の会議でも出てはいるが、何か原因やデータの分析、そこから考えられる対策など何かあるかというのを改めて伺いたい。

少なくとも平成30年度も28教科中6教科、そこから、令和3年度は逆に28教科中3教科で減っていて、ほかの年度も増えているわけではないということは、今検討委員会でいろいろなことをやっていたらと思うが、その効果が必ずしもこの5年は出ていないのではないかというふうにこのデータからは見える。どうして結果として現れないのか、対策が何か違っているのか、または徹底していないから駄目なのか、今後どうすべきなのかがもう少し書いてあってもいいような気がしたが、改めてご説明いただきたい。

次長兼学校教育部長 目標値と同等以上の教科が、29分の5なので相当に低く見えるところである。評価指標が目標値と同等以上の生徒の割合は75%というのが非常に高い目標だというのがまず1点あるとは思っている。これが当該年度の子どもの成績を表していて、その子たちの弱点等を分析して対策を立てていっているが、次の年、また別の子どもたちが同じ学年の教科、テストを受けるので、母集団が違うところもある。同じ子どもたちを経年で追って行って伸びていったかというふうに見られるものとは違う評価の仕方をしていることもあるので、そのときそのときのものだけを見ていることにもなっていると思う。今詳細に申し上げられないところがあるが、確かに、平成30年度からの実績だけを見ると低い水準であるというところは、私もこれは見えていて気になるところである。

ただ、1点申し上げておきたいのは、いろいろと弱点があるところは確実に分析しているし、それを基に先生方の授業改善のための研修ももちろん行っている。また、個別最適な学びということもあるので、それぞれの弱いところに応じた学習もこれからもっと進めていくことになると思う。こうやって得られたデータもうまく活用しながら進めていきたい。今のところ、目標と同等以上の生徒の割合を75%以上としているところも、これがいいのかどうかというのは、本来であればもう少しグラデーションがあって、75%に近いところにいる層もいるかもしれないので、これだけで評価するのも難しいところはあるが、このあたりはさらに研究させていただきたいと思う。

山田委員 やはり客観的な根拠に基づいて教育政策を推進する必要があるという学識経験者の方からの意見がある。確かに今おっしゃるとおり、75%以上という評価指標がもしかしたら高いのかもしれない。必ずしもここに決められたことだけではなく、実はこの数値は上がっていますとか、別の分析結果も見えるように記載したほうがいいのではないかと。多分、お分かりだと思うが、今後対応していただけたらと思う。

次長兼学校教育部長 内部的な検討の中では、経年的な変化ということもあるので、一応この形で見ていくところではあるが、もう少し詳しいデータも持っているのでも、そちらを見比べていきたいと思う。

5 付議事項

第13号議案 令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

(教育指導課長、特別支援教育課長 説明)

資料に基づき説明

花淵委員 今年度までと発行者が変わる教科書について説明があったが、この場合、各学校では年間指導計画が二つ存在することになるのか。

教育指導課長 令和6年度については、委員ご指摘のとおり状況が生まれることになる。

花淵委員 特別支援学級の場合には、児童の障害の程度によって同じ学年でも使う教科書が違う学級があるということによろしいのか。

特別支援教育課長 今お話しいただいたように、児童の実態に応じて採択するということになるので、同じ学年であっても違う教科書を使用する児童が出てくるということになる。

原案のとおり決定

第14号議案 令和6年度使用の仙台市立高等学校、仙台市立中等教育学校及び仙台市立特別支援学校高等部用教科用図書の採択について

(高校教育課長 説明)

資料に基づき説明

花淵委員 青陵中等教育学校の前期課程について、特別なカリキュラムを組めるということで高校の教科書を使えるということだったが、高校の教科書については有償ということによろしいか。

高校教育課長 高校の教科書については有償ということになる。

原案のとおり決定

第 15 号議案 仙台市スポーツ推進審議会委員の委嘱に係る市長への意見の申出について
(スポーツ振興課長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

6 閉 会